

比奈知ダム周辺で見られる草花(春)



【ソメイヨシノ】

撮影場所:長瀬河川親水公園

バラ科の落葉高木。オオシマザクラとエドヒガンの雑種で、明治初年に東京・染井(現在の豊島(としま)区巣鴨(すがも)付近)の植木屋から売り出されたサクラである。初めはヨシノザクラとよんでいたが、奈良県吉野山のヤマザクラと混同されやすいので、藤野寄命(皇室博物館員)によりソメイヨシノと名づけられた。4月の初め、葉の出る前に、径3~3.5センチメートル、淡紅白色の花が開き、各地にもっとも広く植栽され、花見の主体になっている。比奈知ダム周辺にも多数植栽されている。



【しだれ桜】

撮影場所:長瀬河川親水公園

シダレザクラ(枝垂桜)は、枝がやわらかく枝垂れる桜の総称。エドヒガンの系統が多く、品種もさまざまである。ヤエベニシダレやベニシダレなどが有名。キヨスミシダレのような品種もある。開花時期は4月である。長瀬河川親水公園ではソメイヨシノも植栽されており、同時期に2種類の桜が楽しめる。



【八重桜】

撮影場所:下流親水公園

サトザクラの八重咲き品種の通称で、ボタンザクラともいう。4月中旬から下旬に大形の美しい花を開くものが多い。よく知られるものにフゲンゾウ(普賢象)、カンザン(関山)、イチヨウ(一葉)、ショウゲツ(松月)のほか、淡黄緑色花を開くウコン(鬱金)、ギョイコウ(御衣黄)などがある。下流親水公園に植栽されている八重桜はフゲンゾウ、カンザン、ショウゲツ、ウコンの4種類である。

比奈知ダム周辺で見られる草花(春)



【ユキヤナギ】
撮影場所: 下流親水公園

バラ科の落葉低木。名は、雪が積もったように小白花を開き、葉の形がヤナギに似ていることによる。また、この花形を白米が集まったようすに見立て、コゴメバナ(小米花)ともいう。なお、同属のシジミバナも別名コゴメバナというが、花が八重咲きなので区別できる。



【フジ】
撮影場所: 下流親水公園

フジ(藤、学名: *Wisteria floribunda*)は、マメ科フジ属のつる性落葉木本。ノダフジ(野田藤)ともいう。
ノダフジ(野田藤)の名は、この種が植物学者の牧野富太郎により命名されるきっかけとなった、フジの名所であった大阪市福島区野田にちなんでいる(同区玉川の春日神社には、野田の藤跡碑が建立されている)。
比奈知ダム貯水池周辺の公園にも藤棚が設置されている。



【シャクナゲ】
撮影場所: 下流親水公園

シャクナゲ(石楠花、石南花)は、ツツジ科ツツジ属(*Rhododendron*) 無鱗片シャクナゲ亜属、無鱗片シャクナゲ節の総称である。
日本ではその多くのものがツツジと称される有鱗片シャクナゲ亜属のものを欧米では *Rhododendron* と呼んでいるので注意が必要である。ただし、有鱗片シャクナゲのなかでも、ピレア(マレーシアシャクナゲ)の仲間、カワカミシャクナゲのように、日本でもシャクナゲと呼んでいる。

比奈知ダム周辺で見られる草花(夏)



【アジサイ】

撮影場所:ダム展望広場

アジサイ(紫陽花、学名 Hydrangea)はアジサイ科アジサイ属の植物の総称である。学名は「水の容器」という意味で、そのまま「ヒドランジア」あるいは「ハイドランジア」ということもある。また、英語では「ハイドレインジャ」と呼ぶ。

最も一般的に植えられている球状のアジサイはセイヨウアジサイ(ヒメアジサイ・テマリ咲きアジサイは別)であり、日本原産のガクアジサイ(Hydrangea macrophylla)を改良した品種である。

比奈知ダム貯水池周辺の公園内にも様々な品種のアジサイが植栽されている。



【ネムノキ】

撮影場所:貯水池左岸市道脇

マメ科の落葉高木。高さ6~9メートル。葉は2回羽状複葉、長さ20~30センチメートルで柄があり、7~9対の羽片が対生する。小葉は長さ0.5~1.5センチメートル、広披針(こうひしん)形で、おのおの羽片に36~58個つく。葉は就眠運動により夜は下垂する。6~7月、枝先に十数個の頭状花序を総状につける。本州、四国、九州の山野、とくに川原によく生え、朝鮮半島、中国、ヒマラヤ、インド、イランにまで分布する。庭木として植えられるほか、農具の柄(え)や細工物にも使われる。比奈知ダムでは、貯水池周辺の法面に自生している。



【サルスベリ】

撮影場所:ダム展望広場

ミソハギ科の落葉高木で高さ5~10メートル。中国南部原産で、中国名は紫薇。樹皮は赤褐色、滑らかで薄くはげ、跡が帯褐白色の雲紋状になり、小枝は無毛で4稜(りょう)がある。葉は対生または互生し、コクサギ形の葉序になり、倒卵状楕円(だえん)形、長さ3~6センチメートルで縁(へり)に鋸齒(きょし)がない。7~9月、枝先の円錐(えんすい)花序に紅紫色、径3~4センチメートルの6弁の花を開く。

比奈知ダムでは、下流親水公園内にも植栽されている。

比奈知ダム周辺で見られる花(秋・冬)



【山モミジ】

撮影場所：貯水池左岸市道脇

イロハモミジ(いろは紅葉、学名 *Acer palmatum*)は、カエデ科カエデ属の落葉高木である。イロハカエデ(いろは楓)などとも呼ばれる。日本では最もよく見られるカエデ属の種で、紅葉の代表種。本種より作られた園芸種も多い。名張市の市木でもあることから、比奈知ダム貯水池周辺にもイロハモミジが多数植栽されている。



【野キク】

撮影場所：貯水池左岸市道脇

特定の種を示すのではなく、キク科のノコンギク、ヤマシロギク、イナカギクなどのシオン属 *Aster*、ヨメナやユウガギクのヨメナ属 *Kalimeris*、ミヤマヨメナ属 *Gymnaster*などの一般的通称。夏から秋に開花し、頭花がキク属 *Chrysanthemum* に似て、山野にみられるので野菊という。



【サザンカ】

撮影場所：ダム展望広場

ツバキ科の常緑小高木。高さ5～10メートルで、若枝や葉柄に毛がある。葉は互生し、革質で光沢があり、長楕円(ちょうだえん)形、長さ3～6センチメートルで両端がとがり、縁(へり)に細鋸歯(さいきよし)があつて、両面の主脈上に毛がある。10～12月、枝の先に白色5弁、径5～7センチメートルの花を開く。比奈知ダム周辺の公園内に多数植栽されている。